

第4回 八丈島デジタル活用協議会

令和3年12月2日（木）17:00-19:00

次第

- 1 第3回議事概要の承認
- 2 デジタルスクールによるIT人材の育成
- 3 デリバリーサービス（飲食物及び日用品）の導入支援
- 4 二次交通の充実
- 5 今後のスケジュールについて
- 6 各委員からの進捗報告・意見交換
- 7 第5回協議会開催予定日

1 第3回議事概要の承認 (別添参照)

2 デジタルスクールによるIT人材の育成①

目的

八丈島への移住や定住につなげるIT人材育成講座、高齢者がデジタル技術の恩恵を受けられるようにするための島民向けITリテラシー講座等を含む実証事業及び効果検証を行い、次年度以降の民間主体での自走化の検討につなげる。

実証の内容

島内外から募集 IT人材育成

●IT人材育成講座

IT技術者として企業採用が期待できるレベルの人材育成を目的として、中長期での講座を実施

- オンラインとスクーリングを組み合わせた形式（スクーリングは2回）
- 最大4カ月程度の講座を実施

●フロント・バックエンドエンジニア養成講座（※）

それぞれのエンジニアを養成するための講座を少人数（3名程度）、短期集中型で実施

- スクーリングを基本とした合宿形式。
- 1回3週間程度の短期集中型
- 実証期間中各2回実施

島外からの受講者には、「八丈町定住支援金」や「八丈町おしごと掲示板」の求人情報を紹介する等、島内におけるIT人材の定着に資する支援を実施

※ フロントエンドエンジニア：ウェブサイトやアプリの表側の設計・構築・カスタマイズを行う職種（ex. HTML・Javascript等を用いたウェブサイトの構築など。）

バックエンドエンジニア：ユーザーの目に見えないシステムの裏側を構築する職種（ex.サーバーやデータベースの構築、システムの運用・開発など。）

島民向け デバインド対策 ・機運醸成

●ITリテラシー講座（島内対象）

スマホやPC、インターネットに慣れ親しむための講座を島民向けに実施。主に高齢者を想定しており、島内各地で1回2時間程度です。

●各種スキルアップ講座（島内対象）

オンライン講座について島民向けに100人まで無料で提供。なお、提供する講座は250講座以上とし、島内の学生や事業者等が幅広く活用できるコンテンツを提供

実証後（2022年度～）

- 民間事業者による事業の継続実施
- 育成したIT人材を活用した八丈町役場のデジタル施策の支援（協定の締結等を検討）

2 デジタルスクールによるIT人材の育成②

広報・報道の状況

- 2021年10月12日にプレスリリース
シン・トセイHP⇒ https://shintosei.metro.tokyo.lg.jp/post_toshodigital-hachijo1/
- 委託事業者にてPVを作成⇒ <https://www.youtube.com/watch?v=XiTes9TCS0w>
- 10月19日の日経・毎日新聞の朝刊で紙面に掲載
日経デジタルの記事
⇒ <https://www.nikkei.com/article/DGXZQOCC138SP0T11C21A0000000/>

講座の応募状況（締め切り）

講座	定員	応募状況		
		合計	島外	島内※
IT人材育成講座【4カ月間】 (オンライン+現地1週間の合宿)	40	27	10	17 (6)
フロント・バックエンドエンジニア養成講座【3週間】 (現地合宿)	15	13	13	0

※ () 内の数値は都立八丈高等学校の生徒

2 デジタルスクールによるIT人材の育成③

講座の応募状況（受付中）11月29日時点

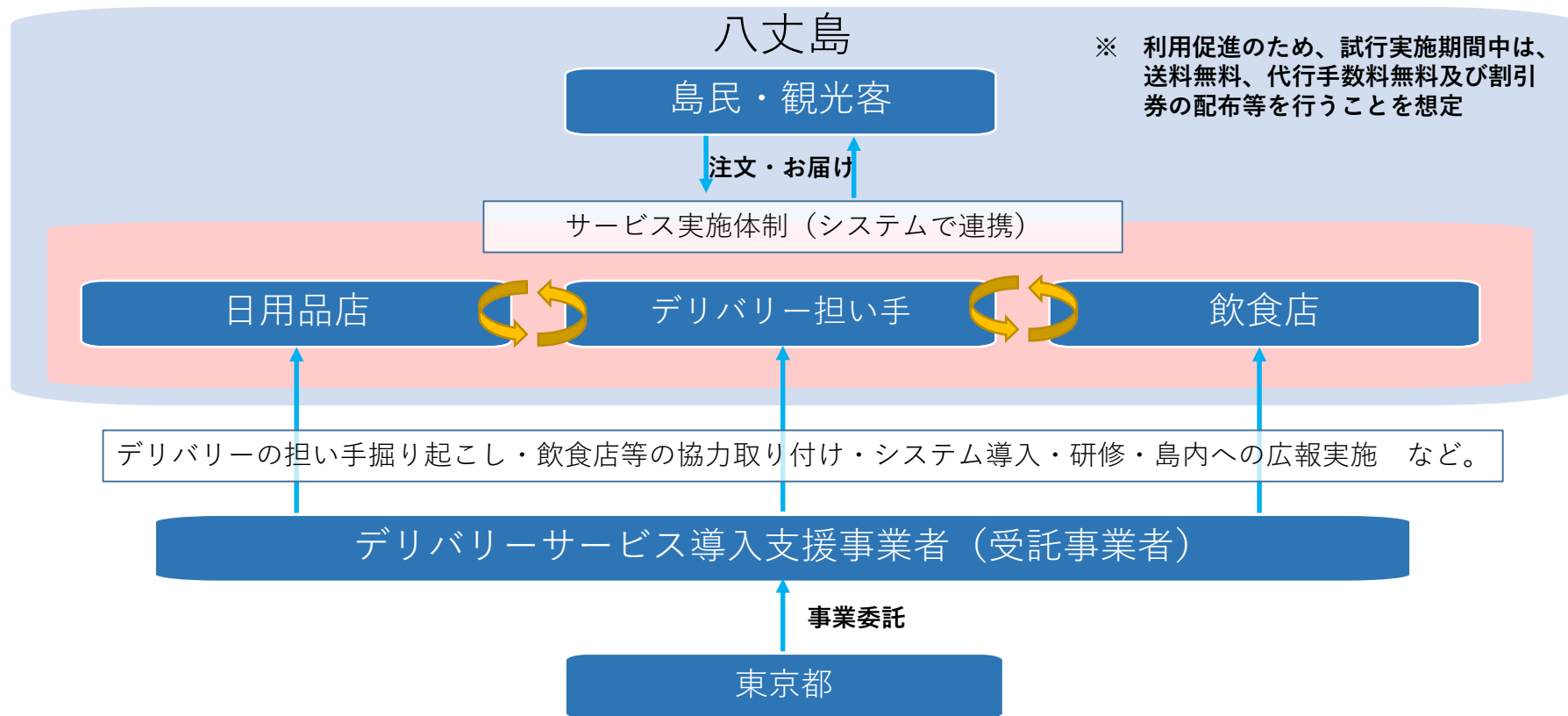
	講座	応募人数
ITリテラシー講座 （はじめてのスマホ・パソコン講座）	11月28日 スマートフォン教室（商工会議所）	19
	12月5日 スマートフォン教室（商工会議所）	20
	12月19日 スマートフォン教室（末吉小学校）	20
	1月9日 スマートフォン教室（大賀郷公民館）	21
	1月16日 スマートフォン教室（三根公民館）	25
	1月30日 スマートフォン教室（檜立公民館）	22
	2月6日 スマートフォン教室（中之郷公民館）	21
	2月20日 パソコン教室（商工会議所）	25
	2月27日 パソコン教室（三根公民館）	25
	スキルアップ講座	22

3 デリバリーサービス（飲食物及び日用品）の導入支援

目的

デリバリー及び買い物代行サービスの導入支援を行い、島民及び観光客の利便性向上を図る。

体制



スケジュール（予定）

2022年4月～6月を準備期間、7月～8月を試行実施期間として想定

4 二次交通の充実①

- 二次交通に関する取組は、実証だけ行って終わりにするのではなく、継続的に実施ができるよう、スキームを検討した上で実施する必要がある。
- 新たな交通サービスの導入の検討に当たっては、既存の交通サービスを勘案した上で、効果的な手法を導入する必要がある。
- 2022年度は八丈島デジタル活用協議会メンバーを二次交通の検討に特化する構成とし、取組を加速

【参考・過去の実証】

自動運転【2019年度】 NTT東日本、東京都

観光客の増加と島内の回遊性を高める目的で実施

- 群馬大学の自動運転技術を搭載
- 観光の窓口である八丈島空港と八丈島観光協会間を運行
- 速度や料金設定及び採算性等で課題

ジャンボタクシー【2018年度】 タクシー会社、八丈島観光協会

観光客の利便性向上、地域経済の活性化等を目的に実施

- タクシー事業者4社の車両を利用し利用最大客数は9名
- リードホテル前～底土～空港～町役場～みはらしの湯までの約24キロを片道50分で運行
- 結果を基に、路線バスの理想的なあり方の検討が必要

4 二次交通の充実②

【今後検討すべき事項】

- 現状調査、島民・観光客のニーズ把握
 - ⇒過去の実証の結果や、新たなアンケート調査等を実施
 - ⇒既存の交通の担い手（役場、タクシー、レンタカー）からも現状の課題等をヒアリング
 - ⇒人の動きなどを、客観的なデータで収集し見える化
- 現状の分析
 - ⇒収集した情報を基に、島に必要な交通手段や、効果的な路線等について検討
- 最適な交通手段（DX）の企画・提案
 - ⇒事業の持続性、採算性（運賃・経済効果）、利便性の観点を踏まえた提案
- 島内関係者との調整・担い手候補の掘り起こし
 - ⇒町役場、既存交通事業者との調整
- 実証事業のスキーム構築（仕様の作成・費用積算含む）
 - ⇒実証の方法、主体（担い手候補）、使用するシステム、実施期間、効果検証の方法 など

上記の検討を踏まえて、R4 下半期（又は令和5年度）以降に実証の実施を想定

5 今後のスケジュールについて

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
デジタル スクール	実証	民間による自走化・役場との連携		
デリバリー サービス	事業案・実証スキーム検討	実証	民間による自走化	
二次交通	事業案・実証スキーム検討		実証	自走化

6 各委員からの進捗報告・意見交換

7 第5回協議会開催予定日

令和4年2月下旬～3月上旬（別途日程調整）

17:00-19:00